地域看護領域における実習指導における現場実践者(保健師)とのパートナーシップの確立

牛尾裕子[1)]　塩見美抄[2)]　竹村和子[1)]　花井詠子[1)]
1)兵庫県立大学看護学部　2)京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

1．背景

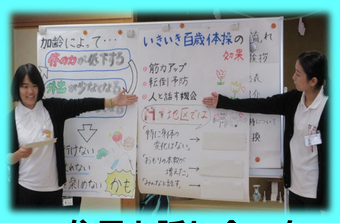
・少子高齢化・人口減少が一層進む中、我が国の保健医療は、地域医療構想の実現、地域包括ケアシステム構築を推進しようとしている。
・保健医療の担い手である看護職には、多様な場において、多職種と連携して保健・医療・福祉を提供する能力、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められている。
・上記の要請に応えるため、本看護学部では、「看護師」教育と、地域保健の担い手となる「保健師」教育を分離せず統合したカリキュラムを提供し、卒業時に全員が「看護師」「保健師」両方の国家試験の受験資格を取得できる。このような統合カリキュラムを提供する大学は全国で約1割程度となっており、県内では本学のみである。
・私たちは本学部において「保健師」教育のコアとなる科目「地域看護学」を担当している。地域看護学は、看護実践の対象がコミュニティであり、地域(コミュニティ)の健康を維持・発展させる技術・知識を体系化する看護学の専門領域である。
・地域看護の実践能力、コミュニティの健康課題を見出し、その健康課題をコミュニティの構成員である住民とともに解決する活動を展開する能力、の育成のため、以下のような実習を3回生全員必修で行っている。

1.実習のねらい
特定の健康レベル・健康障害・発達段階・生活環境にある人々の小集団を対象に、個から始まる地区活動を展開する。これにより、地域生活集団（コミュニティ）のヘルスニーズを明らかにするとともに、ニーズに対応する公衆衛生の理念に基づいた看護の役割・機能(保健師の役割機能)を学ぶ。

2．実習方法
実習期間：1クール2週間（6クール）,実習グループ：1グループ８~9名,
1クールあたり、2グループ2フィールドで実習
実習の重要ステークホルダー：兵庫県内健康福祉事務所とその管内市町の保健師,現場実践者

3．実習内容
グループ単位で、特定の小集団を対象に、個から始まる地区活動を展開する。
①活動展開のための準備：実習地の地区概況を把握し、事前学習をする。
②対象となるコミュニティのアセスメントと保健師活動への参加
・家庭訪問：学生2名につき1件を基本に、対象のニーズを見出すという看護上の目的を持った、看護専門職の地区活動の一環として実施する。
・地区踏査：対象となる人々の暮らす地区を見て回り、話を聞くことで自らの五感を使って、生活の様相を知る。
・保健所・保健センターの保健師業務とその機能・役割を保健事業に参加、保健師の実践活動を見聞きし学習することで理解する。
③コミュニティの構成員（住民）または代表者（住民組織の長など）との話し合い
学生が考えた対象コミュニティの特性やヘルスニーズについて説明することを通じて、コミュニティの構成員（住民）の生活・健康を比較し、修正を図ると共に、対象となる人々自身の健康に関する気付きを高めること、および、その解決に向けた方策を対象となる人々と協働して見出すために話し合いをおこなう。

漁師の方へ地区踏査の報告をしている様子

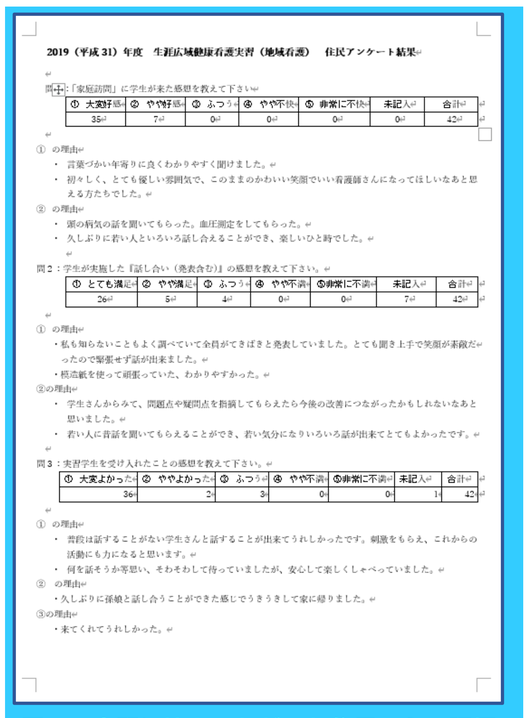


住民と話し合いをしている様子

昨年度学生が企画した**話し合いのテーマと目標は、表１、実習にご協力いただいた住民の方からの評価は図１**のとおりである。
保健師教育における通常の実習は、実習期間中にある公的な保健福祉事業への参加、家庭訪問や地域診断など、保健師の実践活動を、パーツごとに学習するプログラムが主流となっている。本学のプログラムは特殊であり、実習受け入れ施設の保健師からは、賛否両論の評価を得ている。
2018年度は、現役を引退したOB保健師の協力を得て、本学の地域看護実習が保健師実習としての質を担保しているかどうかの観点から、実習プロセスへの参加と評価を得た。その結果、学生の主体的積極的な学習態度や保健師活動の本質的学びが高く評価された一方で、受け入れ施設の保健師の負担が大きいと指摘された。そのうえで、それでもなお施設側が実習を受け入れるには、保健師がこの実習の意義を認め、実習を通して保健師活動の意義や内容の見直しにつながることが重要であるとの意見を得た。
そこで、2019年度は、地域看護領域の実習指導において、実習フィールド側の重要なステークホルダーであり、臨地実習指導者として重要な役割を担う保健師とのパートナーシップの構築を探索することとした。

表１　話し合いテーマと話し合い目標

話し合いテーマ	話し合いの目標
（前期高齢者の方が）5年後、１０年後も元気でいるために	○○地区の前期高齢者の方に、現時点からの介護予防の必要性を、データを用いて認識してもらい、今から自分のために体を動かすことの重要性について気付いてもらう。
笑顔で、元気で、いつまでも スマイル・パワフル・フォーエバー	参加者がこの地域で元気に暮らしていくために、自分の生活を振り返り、健康について工夫していることを共有して、自分のこれからの生活について考えることができる。
あったかエピソードを一緒に振り返りましょう	母子健康推進委員がやりがいを高め、目信を持って活動することで子育てしやすい○○になる。
○○っていいな　～そうだ　○○に行こう～	・○○の参加者が今回の参加に楽しさや充実感を得ることができる。 ・○○の参加者が○○に参加することのメリットを実感することができる。「また来たい」と思うことができる。
○○会の良いところをもっと知ろう！	自分たちの活動の意義をより深く認識し、地域からの活動評価を知ることができると、もっとやりがいを感じることが出来る。
5年後の○○地区で暮らす自分の理想の姿を想像しよう	参加者が５年後の○○地区で暮らす自分の理想の姿を想像し、その理想に向けた行動について考えることができる
3年後の○○倶楽部どうなってほしい？	○○倶楽部の将来像を共有できる。
令和○○ママ会　～ひろがる親子の和～	参加者である母親同士が知り合うことが出来る。 参加者である母親同士が抵抗感なく安心して話し合える。
○○に参加して	健康ソムリエが参加者の思いを知ることで、活動の意欲を高めることができる。参加者が健康ソムリエの思いと○○の目的を知ることでその存在を身近に感じることができ、○○への参加継続の意思がみられる。
気になっていませんか？あなたの体	筋肉の衰えなどの知識を理解して、筋力の維持・向上の方法を習得することができる。 自分の体のことを知り、自らの日常生活について振り返ることを通して生活の継続・改善ができる。
○○町全体で○○(介護予防教室）を盛り上げていこう	○○クラスの参加者が、○○町に住んでいることや○○クラスに参加することの良さに気づく。または再確認することのできる機会とする。さらに、現在○○クラスに参加していない高齢者に、○○クラスの良さをどのように伝えるのが良いかともに考える。
○○の漁師の誇を守れ！	参加者が大事にしているもののためには何が必要か(大切か)を考えることができる


2019（平成31）年度　生涯広域健康看護実習（地域看護）　住民アンケート結果
問1：「家庭訪問」に学生が来た感想を教えて下さい

①大変好感	②やや好感	③ふつう	④やや不快	⑤非常に不快	未記入	合計
35	7	0	0	0	0	42

①の理由
・言葉づかい年寄りに良くわかりやすく聞けました。
・初々しく、とても優しい雰囲気で、このままのかわいい笑顔でいい看護師さんになってほしいなあと思える方たちでした。
②の理由
・薬の病気の話を聞いてもらった。血圧測定をしてもらった。
・久しぶりに若い人といろいろ話し合えることができ、楽しいひと時でした。
問2：学生が実施した『話し合い（発表含む）』の感想を教えて下さい。

①とても満足	②やや満足	③ふつう	④やや不満	⑤非常に不満	未記入	合計
26	5	4	0	0	7	42

①の理由
・私も知らないことをもよく調べていて全員がてきぱきと発表していました。とても聞き上手で笑顔が素敵だったので緊張せず話が出来ました。
・模造紙を使って頑張っていた、わかりやすかった。
②の理由
・学生さんからみて、問題点や疑問点を指摘してもらえたら今後の改善につながったかもしれないなあと思いました。
・若い人に昔話を聞いてもらえることができ、若い気分になりいろいろ話が出来てとてもよかったです。
問3：実習学生を受け入れたことの感想を教えて下さい。

①大変よかった	②ややよかった	③ふつう	④やや不満	⑤非常に不満	未記入	合計
36	2	3	0	0	1	42

①の理由
・昔話は話すことがない学生さんと話すことが出来てうれしかったです。刺激をもらえ、これからの活動にも力になると思います。
・何を話そうか等思い、そわそわして待っていましたが、安心して楽しくしゃべっていました。
②の理由
・久しぶりに孫娘と話し合うことができた感じでうきうきして家に帰りました。
③の理由
・来てくれてうれしかった。

図１　実習に協力いただいた住民からの評価

2．　実習指導における現場実践者(保健師)とのパートナーシップ探索の取り組み

1）　実習指導場面についての教員自身のリフレクション
・活動計画を立案するグループワーク指導に、第三者的立場から、県健康増進課保健師の参加・実習指導を得て、修了後、教員と当該保健師とで、実習指導場面を振り返った。
・困難を感じた実習指導場面について、リフレクションシートを用いて記述し、これを資料として教員内で、リフレクションワークを行った。

2）実習指導保健師対象に実習指導振り返り会とグループインタビューの実施
①2019年度生涯広域健康看護実習(地域看護)概要報告
②臨地実習指導保健師アンケート結果の報告
③実習指導困難場面と教員の振り返りの紹介、質疑応答終了後グループインタビュー
テーマ「実習場面における学生の学びで印象に残ったこと、課題と感じたこと」

保健師からの発言等
・（地区活動の計画立案に至る教員と学生の生々しい指導のやりとりの一部を共有したことで）「舞台裏を知れた」
・「完成してからの助言役割のみでなく、計画立案段階に保健師が入ることができればよい」等
・（印象に残った実習指導場面）「（本学）実習を保健師活動の課題解決と組み合わせて企画した結果、学生実習が貴重な介入となり次年度の展開への道筋がついた」

3．　結果

1）実習指導振り返り会
2020年２月に実施。2019年度本学3回生実習を受け入れた健康福祉事務所および市町の実習指導保健師16名に案内を送付し、4名（保健所保健師2名市保健師2名）が参加した。

2）実習指導ガイドラインの作成
今年度地域看護実習臨地実習指導者会議において、本研究成果とガイドラインを報告し、実習指導における保健師との共同関係構築に資する予定であったが、新型コロナウィルス感染症感染拡大状況により、今年度は例年と異なる実習形態となり、指導者会議も中止となった。別の形で今後に生かす予定である。

4．取り組みの成果

実習指導振り返り会は、教員と保健師が対等に実習のあり方を語り合う機会となった。実習指導場面についての教員の生々しいリフレクションを共有するという方法が有効であったと考えられる。
地域看護を担う人材の育成において、現場実践者である保健師との共同による指導は重要である。その保健師とのパートナーシップの構築においては、教員の教授意図と共に学生が学ぶプロセスを共有することが重要との示唆が得られた。